【御所市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICTを活用した新しい時代に必要な資質・能力の育成を目指し、ICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

また、ICTの特性・強みを生かした学習の過程の充実を通して、学ぶ力の育成を図るとともに、情報活用能力の育成を目指す。

２．GIGA第１期の総括

令和２年９月に市内小中学校児童生徒に１３２３台のパソコン端末を整備。「いつでも、どこでも、すぐに」繋がるをコンセプトにLTEモデルのノートパソコンを整備。家庭に無線環境がない場合でも対応できるように整備を行った。令和２年の導入時には教員向け研修を各校複数回実施し教員のスキル向上に努めた。

また、令和２年から順次普通教室すべてに電子黒板を整備し、同時に指導者用デジタル教科書の整備を行った。

令和３年度からICT支援員を年各クラス４回配置し、教職員や児童生徒の学習活動のサポートを行った。

第１期においては、「ICTを活用した新しい時代に必要な資質・能力の育成」を目標に

方策１　児童生徒の情報活用能力の育成

方策２　教員のICT活用能力の育成

方策３　ICT環境の整備と運用

の３つの方策に重点的に取り組んだ。

① 児童生徒の情報活用能力の育成について

質　問　事　項	２０２３年	
	小学校６年	中学校３年
インターネットを使って調べたいことを調べることができる。	９３％	９５％
パソコンの表計算ソフトを使って、表やグラフを作ることができる。	５４％	６５％
パソコンのプレゼンソフトを使って、プレゼンを作り、発表することができる。	６２％	７８％
パソコンを使って、友達と考えを分類したり整理したりすることができる。	６５％	６５％

インターネット等を使って調べることは、ほとんどの児童生徒ができる。しかし、小学校では、プレゼンを作って発表する経験が少ない。小中ともに自分の考えをまとめたり、友だちと考えを分類したり整理したりすることには課題が見られる。今後、目標値を見直すことや情報活用能力の到達目標に基づいて、全ての教育活動を通じて計画的に情報活用能力を育成していく。

② 教員の ICT 活用能力の育成について

質　問　事　項	２０１９年	２０２３年
児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	７５％	９４％
児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	４９％	８７％
グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	４３％	８２％

「ICT を活用した授業を行っている」と回答した教員の割合は、小・中学校ともに９５%を上回っている。これは、小中学校全ての普通教室への電子黒板と指導者用デジタル教科書の導入の影響が考えられる。

また、文部科学省が実施した「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」では、授業における ICT 活用や児童生徒へ I CT 活用を指導する能力について、GIGA 端末導入前に比べて飛躍的に高まっている。ICT 環境の大きな変化に伴って、授業でタブレット端末を活用した経験が少なかったり、1 人 1 台の端末を活用する授業のイメージをもてなかったりする教員に対して、スキルの向上を図る研修や、活用経験を増やすための研修を実施した成果だと考える。

③ ICT 環境の整備と運用について

令和 2 年コロナ禍において緊急的に ICT 環境の整備が進んだ。児童生徒及び教職員へ LTE モデルのパソコンが整備され、「いつでも・どこでも・すぐに」使える環境が整っている。コロナ禍ではオンライン学習を実施することとなり、パソコンの活用機会が飛躍的に増えた。また、同時に整備された電子黒板の活用も指導者用デジタル教科書の導入とともに、活用機会が増えている。

また、令和 5 年度から電子図書サービスを導入し、読書率の向上にも活用している。

しかしながら、家庭への持ち帰り率は週 1 回程度であるため、今後さらなる持ち帰りの推進を進めていきたい。

３．１人１台端末の利活用方策

Google Workspace for Education を活用し、1 人 1 台端末と教師の端末及び電子黒板と連携し、教材等の配布のほか画面共有等を行うことにより、個々の児童生徒の書き込みをリアルタイムで共

有する。そのため今後は、課題配布や回収等を行い提出物の一元管理や複数人の同時操作による情報整理や意見交換等グループでの協働学習をさらに推進する。

また、学校における教員の ICT 活用をサポートするため、ICT 支援員を引き続き配置し、ICT を活用した授業等を教員がスムーズに行るように支援する。

次に、新たな授業スタイルの創出として、場所や時間にとらわれない学びの実現のため、欠席時におけるオンラインでの授業配信の実施の検討。

また、1 人 1 台端末の利活用にあたり、下記の指標及び目標を達成できるよう取り組む。

項目	評価の指標　KPI	現状値 （年度）	目標値 （目標年度）
1 人 1 台端末の積極的利用	毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	７０％ （R5）	９０％ （R7）
	ICT 支援員の配置	１００％ （R5）	１００％ （R6）
	一人一台端末を週 3 回以上活用する学校の率	今後把握	１００％ （R7）
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	１００％ （R5）	１００％ （R6）
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	今後把握	９０％ （R７）
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	今後把握	９０％ （R7）
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	今後把握	９０％ （R7）
	児童生徒同士がやりとりする場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	今後把握	９０％ （R7）
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において 1 人 1 台端末を週 3 回以上使用させている学校の率	今後把握	９０％ （R7）
学びの保障	希望する不登校児童生徒への授業配信を実施している学校の率	１００％ （R5）	１００％ （R6）
	希望する児童生徒への 1 人 1 台末を活用した教育相談を実施している学校の率	０％	１００％ （R８）
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に 1 人	１００％	１００％

	1 台端末を活用している学校の率	（R5）	（R6）
	障がいのある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて ICT を活用した支援を実施している学校の率	１００％ （R5）	１００％ （R6）

以上の取り組みを実施するためには、1 人 1 台端末が必要不可欠です。そのため端末の整備及び更新により、1 人 1 台端末環境を引き続き維持していきたい。